■（79）校則を厳しくすれば、非行は減るか

観光地そばの交差点の横歩道、小学校そばの児童ら登校の列…。信号無視や無謀な運転の車に多数の歩行者が巻き込まれる悲惨な事故が続く。遺族や被害者を中心に、運転手により罰則の重い罪の適用を求める声があがる。当然ながら命を奪った責任は重い。

罰則を厳しくすれば事故や犯罪を防げる、との考えが最近の流れだろう。無責任な運転者の起こした事故をきっかけに、飲酒運転などの罰則が厳しくなったのは2001年ごろからだった。被害者の訴えを中心に、新聞やテレビは厳罰化を後押しした。私も警察担当として発信し続けた。ただ、その取材の中で、厳罰化で事故や犯罪を防げるとは限らない、との意見も少なからず聞いた。世の中のルールを意識しない人たちに、罪は抑止力にはならないという見方だった。そのやりとりをつい思い起こしてしまう。もちろん、厳罰化をきっかけに、飲酒運転は大きく減り、死亡事故も目に見えて減少したことは確かだ。

子どもたちが、社会にルールがあることを最初に学ぶのは、おそらく学校だろう。一連の事故の報道が、なぜ学校に校則があるのかを考えるきっかけにもなればといいと願う
(山)